



学校だより

志高く

発行 熊谷市立熊谷東中学校
電話 048(521)0066
FAX 048(521)8429
令和5年12月22日
第15号

正しい判断力とたくましい実践力を
もった熊谷東中生を育む学校

ふるさとのはなし ～雷電池の龍～



校長 清水 利浩

来年は、**たつどし**です。そこで、**熊谷東中学区に伝わる「龍」や「辰」にまつわる昔ばなし**を紹介します。これは、佐谷田地区に伝わる**「雷電池」という昔ばなし**です。

「ある年、佐谷田あたりは大干ばつに見舞われていました。とにかく何十日も雨が一滴も降らないのです。村人たちが丹精を込めて育てた農作物も、水がないために、もはや枯れる寸前でした。(これは、雨ごいをしなければなるまい。)と名主

は思い、さっそく村人たちを雷電池の前にある雷電池の前に集め、雨ごいを始めました。

雨ごいの最後、村の長老が目で名主にうながしました。それに名主も目で答えると、小さな石を拾い、意を決して鏡以上に澄みきった、美しいとしかいえない雷電池の中に投げ込んだのです。この雷電池には、龍神がすんでおり、ものを投げてにげせると、必ず大水になる、という言い伝えがありました。ですから、村人たちは、子どもだけでなく村人自身さえも、必要がないかぎり、この雷電池に近づきませんでした。池の底さらいなどはもつてのほかです。もっと底さらいなどしなくても、池はいつも驚くほどの美しさを保っていました。ですから、村人たちはこの言い伝えにすがって、雨ごいの後には必ず石を投げ入れることにしているのです。

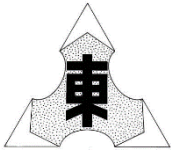
名主が石を雷電池に投げ入れた後、村人たちは一斉に手を合わせ、龍神さまに祈ったのです。ほどなく、黒雲が空の一点にわいたかと思うと、たちまちのうちに黒雲が空をおおい、まもなく大粒の雨が降ってきました。こうして村は救われたのです。」

現在、この雷電池は存在していません。しかし、鳥居の左にあるくぼみが雷電池のなごりといわれており、5月最初のトラの日にはお祭りが行われるそうです。また、この雷電池が元荒川も源流でありました。熊谷東中学校ができる前の桜田中学校には、郷土史班という活動班があり、この班の大先輩たちが昔ばなしをまとめ、昭和33(1958)年に「ふるさとのはなし」という本を発行しました。こうした努力もあり、熊谷東中学区には現在もたくさんの昔ばなしが語り継がれています。上之地区には、「龍が淵(りゅうがふち)」という昔ばなしもあります。

ぜひ皆さんも本で調べたり、地域の人たちに聞いたりしてみましょ。

<参考文献> ・「雷電池」と「龍が淵」『熊谷の昔ばなし』熊谷市立図書館 平成13年発行。

・上之雷電池神社の宮司さんにもいろいろとお話をお聞きいたしました。



がちゅう
R5 東 中の歩み(12月)



2年生職場体験学習【12月5日(火)～12月7日(木)】43事業所で学びました。



生徒朝会【12月13日(水)】

1年生調理実習【12月18日(月)】



英語授業公開【12月20日(水)】

3年生ダンス発表会【12月21日(木)】



令和5年度熊谷市東中学校行事計画は
右のQRコードから確認できますので、
ご利用ください。

